

科目名	Advanced Academic Writing and Communication	授業形態	演習
日本語科目名	アカデミックライティング&コミュニケーション	開講学期	前期
対象学年	1年次	単位数	2単位
代表教員	今井 純子	ナンバリング	GEL503
担当教員	今井 純子		
授業概要			
全体内容	<p>本科目は、国際教養学諸領域を専攻する大学院生が、修士課程の学びにおいて必要とされる、英語によるアカデミックライティングとプレゼンテーション能力、それらの基盤としてリサーチに必要な学術論文を探し、読む力（リテラシー）、を習得することを目的とした入門演習です。具体的には、グローバルコミュニケーション・ヘルスサービス研究領域における主な成果発表の種類（学会プロポーザル、研究発表、論文、ポスターなど）を知り、読み手・聞き手に向けて分かりやすく書き、発表する能力を養います。また、データ分析、インタビュー、エッセイ、発表を含むプロジェクトへの取り組みを通して、修士課程で求められる様々なジャンルの成果発表の作成過程を体験します。学期を通して、英語を使ってフォーマル・インフォーマルに書く・話す能力を高め、大学院で期待される自律したアカデミック・コミュニケーションを身につけます。</p>		
到達目標	<p>(1) 国際教養学諸研究領域で通例とされるアカデミック・コミュニケーションの種類・手段とその特徴を理解する (2) 自身のライティング・プレゼンテーション能力を知り、大学院での研究に求められるコミュニケーション能力を伸ばす (3) 演習やプロジェクトを通して学んだ情報を、自らの研究領域において必要とされる成果発表形式でアウトプットする</p>		
授業の位置づけ	基盤科目、必修科目		
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ディプロマ・ポリシーのうち、「知識と理解 (DP1)」「コミュニケーション力 (DP4)」「自律的に学ぶ力 (DP5)」に関連している。		
履修上の注意、履修要件	<ul style="list-style-type: none"> ・各回のテーマについて指定された教科書の章、配布資料等は事前に読んでくること。 ・プロジェクト課題に含まれるデータ収集・分析、エッセイ、発表の準備については、授業外で各自責任をもって取り組むことを基本とする。 ・課題・宿題への取り組みを前提として、授業では、グループワーク、進捗報告、成果発表、相互評価、フィードバック等を行う。 ・この科目の主たる使用言語は英語である。授業中の使用言語を 		

	英語とし、提出課題やレポート試験も特段の指示がない限り英語で解答を求める。
成績評価の方法	
評価方法	<p>下記の項目の得点状況に基づき評価する。3分の2以上の出席を評価の前提条件とし、欠席／遅刻は減点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参加度 (15%) ・ 各回の事前・事後課題 (15%) ・ プレゼンテーション&ポスター発表 (20%) ・ プロジェクト (Convention Analysis Projects) (30%) ・ 期末レポート (20%)
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業やテキスト、配布資料で紹介されるアカデミック・コミュニケーションやライティングの知識や言語表現を、各回の事前・事後に指定される Task を通じて積極的に使用する。 ・ Convention Analysis Project に含まれる一連の課題 (CAPs) を、履修者主体で実施し、完了させる。 ・ 本科目でのテキスト・配布資料を使った演習やプロジェクトの学びを通して、領域で期待される学術的なプレゼンテーション、論文の書き方、その他のコミュニケーション手段について理解を深め、成果発表に向けての学習プロセスを習慣化する。 ・ また、期末レポートやポスター発表を、修士課程で研究を始めるにあたっての指針作りと捉え、授業内での討議、グループワーク、成果発表の共有、相互評価を通じて、研究交流の擬似体験を行うことができる。
試験・課題等に対するフィードバック方法	
課題へのフィードバックは、授業内で行うことを基本とし、適宜 Google Classroom も活用する。	
テキスト	
Swales, & Freak, C.B. (2012). <i>Academic writing for graduate students: Essential tasks and skills</i> . University of Michigan.	
参考文献	
Huang, L. (2010). <i>Academic communication skills: Conversation strategies for international graduate students</i> . University Press of America.	
Mallette, L. & Berger, C. (2011). <i>Writing for conferences: A handbook for graduate students and faculty</i> . Greenwood.	
<p>その他必要なプリント、リンク先等は授業内で配布、お知らせします。</p> <p>学術論文については、学術メディアセンターのデータベースをご活用ください。</p>	
その他	
連絡先・オフィスアワー	<p>連絡先：質問や面談のアポイントメントは、授業開講時限の前後の他、随時、電子メール (j-imai@juntendo.ac.jp) で受け付ける。</p>

		オフィスアワー：(木・金) 12:20~13:10		
担当教員の実務経験		なし		
備考		なし		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法※	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	今井 純子	<u>授業概要, 課題, 成績評価</u> について説明をする。各領域で主流とされる成果発表法(学術論文等)を明らかにするため, 本科目で取り組む Convention Analysis Project に含まれる6つの課題(CAPs)について, モデルサンプルの分析やワークを通して理解する。	演習, グループワーク	【予習】テキスト序章とシラバスを読んでおく(120分)。 【復習】ポイントをノートにまとめ, プロジェクトの実施計画を立てる(120分)。
2	今井 純子	<u>アカデミック・コミュニケーションの基本</u> (種類, 目的, 想定読者・聴者, 作成プロセス等)について, 例示されたサンプルの比較やこれまでの学習経験の振り返りを通して理解を深める。テキストの読解や内容についての討議, 演習問題を通して, ライティングの基礎を復習する。インフォーマル, フォーマル, ディスカッションで役に立つ表現を意識しながら, 実践する。	演習, 討議	【予習】テキストのUnit 1を読み, 事前に指定されたTaskをやっておく(120分)。 【復習】ポイントをノートにまとめ, 配布資料を再読する。指定されたTaskを提出する(120分)。
3	今井 純子	<u>学術文献の探し方・読み方・記録法</u> を学術メディアセンターでのワークを通して身につける。データベースを活用し, 研究に必要なアカデミック・リソースの入手方法について理解を深める。領域で同時履修する科目のシラバスやリーディングリストを分析し, 代表的なライティング・プレゼンテーション課題の種類や雑誌タイトルを知り, 自己の学術関心に添った論文を複数入手する。システムティックな読書記録法を身につける。	PBL	【予習】事前配布資料を読み, 学術メディアセンターを利用し, 事前指定されたTaskをやっておく(120分)。 【復習】ワークでの学びや発見を, CAPプロジェクト報告書1(CAP1)としてまとめる(120分)。
4	今井 純子	<u>要約の書き方</u> を復習し, 学術的なトーンを維持するための動詞・接続詞等のライティング表現や口頭でのサインポストを, 演習問題を通して身につける。	演習, 討議	【予習】テキストのUnit 5を読み, 事前に指定されたTaskをやっておく(120分)。

		前週のワークで入手した学術論文を要約する。読んだ論文やこれまでの自分の研究(卒論等)について、情報カードにまとめ、要約を口頭で発表する。要約が必要とされるその他の場面(文献レビュー、アブストラクト等)について討議する。		分)。 【復習】要約した学術論文を再読し、CAPプロジェクトの報告書2(CAP2)としてまとめる(120分)。
5	今井 純子	<u>エキスパート・インタビュー</u> のため、指導教員または先輩院生に協力してもらい、第4週までの学び(学術メディアセンターのリソースを使ったワークやシラバス等の分析)や発見を確認する。各領域でのアカデミック・コミュニケーションで求められる知識やスキル、模範となる学術論文などについて追加のアドバイスを受け、理解を深める。	PBL	【予習】課題(CAP3)の指示を読み、インタビューでの質問事項を精査する(120分)。 【復習】インタビューで得たポイントをプロジェクトの報告書3(CAP3)としてまとめる(120分)。
6	今井 純子	<u>アカデミック・プレゼンテーション</u> を準備し、前週に行ったエキスパート・インタビューでの学びの成果について、口頭発表する。相互の発表にコメントし評価する。学会での研究発表などで必要な表現について討議する。	討議, 発表	【予習】発表スライドを準備する(120分)。 【復習】発表後の振り返りや他の発表から学んだ事をノートにまとめる(120分)。
7	今井 純子	<u>導入部や定義の書き方</u> を、演習問題を通して身につける。各自選定した模範学術論文の導入部(Introduction)や定義箇所について、本時での学びが当てはまるか、対象とする論文の構成や言語表現を分析し、検証する。	演習, PBL	【予習】テキストのUnit 2を読み、事前に指定されたTaskをやっておく(120分)。 【復習】学術論文の分析結果と役に立つ表現をプロジェクトの報告書4(CAP4-1)としてまとめる(120分)。
8	今井 純子	<u>問題提起, プロセス, 解決方法の書き方</u> を、演習問題を通して身につける。分析中の学術論文の方法論(Methodology)の書かれ方について、本時での学びが当てはまるか、対象とする論文の構成や言語表現を分析し、検	演習, PBL	【予習】テキストのUnit 3を読み、事前に指定されたTaskをやっておく(120分)。 【復習】学術論文の分

		証する。		析結果と役に立つ表現をプロジェクトの報告書 4 (CAP4-2)としてまとめる (120分)。
9	今井 純子	<u>データの説明や図表描写の書き方</u> を、演習問題を通して身につける。分析中の学术论文の結果報告箇所 (Results) について、本時での学びが当てはまるか、対象とする論文の構成や言語表現を分析し、検証する。	演習, PBL	【予習】テキストの Unit 4 を読み、事前に指定された Task をやっておく (120分)。 【復習】学术论文の分析結果と役に立つ表現をプロジェクトの報告書 4 (CAP4-3)としてまとめる (120分)。
10	今井 純子	<u>研究の条件、批評・評価文の書き方</u> を、演習問題を通して身につける。分析中の学术论文の考察・結論箇所 (Discussion & Conclusion) について、本時での学びが当てはまるか、対象とする論文の構成や言語表現を分析し、検証する。	演習, PBL	【予習】テキストの Unit 6 を読み、事前に指定された Task をやっておく (120分)。 【復習】学术论文の分析結果と役に立つ表現をプロジェクトの報告書 4 (CAP4-4)としてまとめる (120分)。
11	今井 純子	<u>研究方法 (M) と結果 (R) の書き方</u> を、演習問題を通して身につける。CAP プロジェクトにおける一連の課題の実施方法と、これまでの分析結果 (CAP1~4) について、テキストが紹介する知識や言語表現を活用してまとめてみる。	演習, PBL	【予習】テキストの Unit 7 を読み、事前に指定された Task をやっておく (120分)。 【復習】授業のポイントをノートにまとめ、指定された Task を提出する (120分)。
12	今井 純子	<u>序論 (I) と考察・結論 (D) の書き方</u> を、演習問題を通して身につける。CAP プロジェクトにおける一連の課題 (CAP1~4) の紹介と、これまでの結果の評価や	演習, PBL	【予習】テキストの Unit 8 を読み、事前に指定された Task をやっておく (120

		振り返りを，テキストが紹介する知識や言語表現を活用してまとめてみる。		分)。 【復習】授業のポイントをノートにまとめ，指定された Task を提出する (120分)。
13	今井 純子	<u>学术论文(IMRAD)形式</u> で，Convention Analysis Project の成果をまとめて。互いにフィードバックやコメントをし，論文を完成させる。	演習，グループワーク	【予習】前回までの授業内ワークを元に論文を草稿する (120分)。 【復習】論文を修正し，提出する。(120分)。
14	今井 純子	<u>ポスター作成と発表の基本</u> について，サンプルの分析をし，教員からの説明を受ける。前週までに IMRAD の学术论文 (ライティング) 形式でまとめたプロジェクトの成果を，ビジュアルとしてポスターにまとめ，口頭で効果的に発表する準備をする。	演習	【予習】事前配布資料を読みポスターの準備に取りかかる (120分)。 【復習】ポスターを完成させ，印刷する (120分)。
15	今井 純子	<u>ポスター発表</u> をし，学术论文や学会発表をする際の決まり事 (Academic Conventions) についての発見，本科目の学びの活用についての大学院で研究に取り組む上での今後の見通しを成果として共有する。発表の相互評価を行い，本科目での学びの総括をする。	討議，発表	【予習】発表のリハーサルをし，質問を予測する (120分)。 【復習】本科目での学びや自他の発表を振り返り，感想や反省点をノートにまとめる (120分)。

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合，その内容を明記 (PBL, 反転授業, グループワーク, 討議, 発表等)